文学部文学科

［教員養成の目標］

文学部文学科では、教職専門科目や教科専門科目、そして本コース独自の専門科目を通じた知識を基底に、現代及びこれからの時代の教育の課題をとらえながら教育の在り方について深く考えることや、古代から現代に至る日本の文学や文化、言葉について専門的に理解することを通じて、教職において「気魄（責任感）」と「適切な見識（判断力）」を持ちつつ、人間性が豊かで専門性や教養が深く、「誠意（真心）」と「勤労（実践力）」をもって生徒の指導にあたることのできる教員の養成を目的としている。

以上の目的のもとで、教員養成の教育課程においては、いかなる生徒にも確実な学びを実現する実践的指導力の育成、自らの資質を向上させ続ける自己教育力の育成、自ら問題を発見し・考え・解決する問題解決力の育成、主体的に動き・粘り強くやり遂げる行動力の育成に力点を起きつつ、今日求められる「主体的で対話的な深い学び」を担うことのできる中学校国語科（1 種）、高等学校国語科（1 種）・高等学校芸術科書道（1 種）の教員の養成を行っている。

［当該目標を達成するための計画］

上記の教員養成の目的を達成するために、文学部文学科では、日本の文学や文化、日本語について深い専門性と幅広い教養を養うべく、日本文学・文化に関する多彩な科目を設置し、幅広く、かつ専門的に学ぶことができるように構想されている。そのために、具体的には、必修の専門科目として「日本文学・文化入門 A・B」「日本文学史」「日本語学概論」、選択必修科目として各時代の文学作品を様々な分野の文献を読む科目を設置する。また、3・4 年次には、個々の主体的な学びに基づいて専門性を高めるべく、PBL やグループ・ワークやアクティブ・ラーニングが中心となる「日本文学・文化演習Ⅰ・Ⅱ」、「卒業論文」を必修科目として設置しており、基礎から専門へと展開しながら、今日求められる教職に必要な知識や技能を修得できる体系的な履修体制を整える。このような履修体制を基軸とし、文学部設置の教職科目として、１・２年次は、教育について基礎的な理解の土台となる教育基礎論、教職論、教育心理学、生徒・進路指導論、道徳教育の理論と実践、特別活動の指導法、教科についての基礎的な理解を図る国語科基礎論などを設定し、特に２年次からは実践的な力量形成を図る教科の指導法（国語科教育論・国語科指導法）を設定する。なお、教科の教育論・指導法では、模擬授業を通じて、ICT 機器の活用について理解を深める。そして、３年次には教職について多角的に理解を深めていくための教育課程論、教育行財政、教育相談、特別支援教育概論、教育実習の事前指導に当たる教育実習Ⅰなどを設定し、４年次には教職課程における学びの集大成としての教育実習、事後指導を含む教育実習Ⅱ、また、４年間全体の教職課程の履修を通じて、個々が教職に関する知識や技能の習得状況や課題について省察を深める教職実践演習の科目を設定する。これらの科目を通して、人間性が豊かで専門性や教養が深く、「気魄（責任感）」と「適切な見識（判断力）」を有し、「誠意（真心）」と「勤労（実践力）」をもって生徒の指導にあたる教員を養成する。